

一緒に歩いていきたい

茨城大学教育学部附属小学校五年

浅沼稟佳

「稟ちゃん、障がいつて何だと思う？」
盲導犬ユーザーの森畑さんとオンラインでお話したときに
たずねられた質問です。

昨年、私の家でパピーウォーカーというボランティアを
しました。パピーウォーカーとは、盲導犬の訓練を受ける
仔犬と一年間家族の一員として一緒に生活するボランティア
です。このボランティアがきっかけで、私は、盲導犬に
ついていろいろ調べる事にしました。盲導犬の歴史や盲導
犬の一生は、本やインターネットで調べましたが、私が一
番印象に残っていることは、父と母に相談して、盲導犬を
パートナーにしているユーザーさんへインタビューができ
たことでした。

森畑さんは、四国に住んでいて地域の社会福祉協議会で
働いています。私はオンラインで初めて会って話をしたの
で、とてもきん張してしまいました。でも森畑さんが、優
しく、にこにこしているいろいろなことを教えてくれました。

森畑さんが私に「パピーウォーカーをしてきてくれてありが
とう」と言ってくれました。盲導犬は、はんしょく犬ボラ
ンティア、パピーウォーカー、訓練士、ユーザー、引退犬
ボランティアなど、多くの人の心がつながっています。そ
の輪の中に自分が関わっていることがうれしかったです。

障がいとは何か：森畑さんからの質問に、私は最初体の
不自由なところを思いうかべました。でも、森畑さんにとっ
ては、信号のない横断歩道であったり、道の段差、放置自
転車、はみだした看板などであり、障がいは、社会の中
にあると教えてくれました。目の見える私達は、無意識にさ
けて通りますが、森畑さんとスーさんが不便な道は私達に
とつても不便な道に変わりありません。

「稟ちゃんが知らなかったこと、初めて知ってびっくり
したこと、たくさんの人に伝えてほしいな」

森畑さんと約束しました。森畑さんは地元の小学校だけ
でなく、日本全国の小学校でもオンラインで盲導犬のこと、
障がいのことを伝えていきます。私にできることは、私自身
が調べた盲導犬のことや、森畑さんに教えてもらった事を
多くの人に伝える事です。森畑さんとスーさんが歩きやす
い社会を私も一緒に作り、歩きたいです。

森畑さんの目は、「網膜色素変性症」という、見えるはん
囲がどんどんせまくなってしまふ病気で、薬や手術でも治
すことができないそうです。そんな森畑さんのとなりには、
真つ黒でツヤツヤしたワンちゃんがありました。宝石みたい
な犬でした。パートナーの「スーさん」です。買い物に行
くときやお仕事に行くとき、パートナーのスーさんと一緒
に歩くのです。スーさんが右に曲がるとか、直進するなど、
道を覚えているわけではなく、森畑さん自身が音やにおい、
車道の様子などで、道を覚えていて、頭の中の地図にした
がって、スーさんに「コマンド」とよばれる指示を出して
連れていってもらふそうです。小さな段差や路上の自転車、
看板など、スーさんは、森畑さんがぶつからないようによ
けて歩いてくれるので、「外に出るのが楽しくなった」と
話してくれました。安全に歩ける事やスムーズに公共交通
機関を使えることが当たり前前に感じる事が、「楽しみ」に
なると初めて知りました。